

Weekly report

MINKABU
THE INFONOID

株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都千代田区神田神保町3-29-1

今週の注目材料 = 新型コロナウイルスにらみの展開続く

2020年2月24日

ドル円は先週半ばからドル買い円売りが一気に強まりました。

今月に入って米ISM製造業景気指数、米雇用統計などの好結果が続くなど、米経済統計は全般に好調。新型コロナウイルスの感染拡大懸念や、中国経済の鈍化懸念に世界的に先行き不透明感が広がり、欧州、日本などの景況感悪化が懸念される中で、米国独り勝ちの状況に。こうした動きが今月に入ってのユーロドルの1.11手前から1.07台への下落(ユーロ安ドル高)を誘うなど、ドルはほぼ全面高となりました。

ドル円も108円30銭前後から110円台を付けたところまで上昇していたものの、その後新型コロナウイルス感染拡大懸念でのリスク警戒の動きに110円近辺で頭を抑えられる展開が続きました。しかし、横浜港に寄港しているクルーズ船での感染被害拡大や、日本での新型コロナウイルス感染による死亡者の発生などを受けて、海外市場では日本も当事国との一つという意識が強まったと見られ、19日の海外市場で円売りが一気に拡大。112円台への上昇につながる展開となりました。

今週もこの新型コロナウイルスにらみの展開が続くそう。リスク警戒での円買い、いわゆる「有事の円買い」がこれまでの一般的な流れでしたが、有事に買われることが多く「有事のドル買い」という動きが一般的だった時に、911同時多発テロやリーマンショックの際にはドル売りが強まったように、当事国となった場合はその限りではありません。一服しつつある中国の感染者数拡大が止まらなかった場合や、中国以外のアジアの国での感染被害拡大などが見られると、円売りの動きが加速する可能性もありますので要注意です。

一方で米指標の好結果や、先週もナスダックが史上最高値を更新するなど好調な株式市場動向を受けたドル買いの動きも継続。ドル円はドル買い円売り両面から上方向への動きが見込まれています。

急激なドル高円安に高値警戒感も見られますが、地合いは相当強そうです。

経済指標としては27日木曜日22時半に発表される米第4四半期GDP改定値と、1月の米耐久財受注が注目を集めています。

独り勝ちの状況の米国。速報値ベースでの昨年第4四半期のGDPは個人消費が第3四半期から鈍化したものの、貿易収支の改善などを受けて第3四半期と同じ前期比年率+2.1%を記録。

日本の第4四半期GDPが前期比年率-6.3%と衝撃的な弱さ。ユーロ圏最大の経済大国ドイツの第4四半期GDPも予想を下回る前期比変わらずと、他の先進国の経済成長が芽えない状況となっているだけに、米経済の堅調さが目立っています。

改定値では+2.2%と若干の上方修正が見込まれています。速報値時点では在庫投資がわずかに65億ドルと、前期の694億ドルから大きく減少し、GDPに厳しい影響を与えました(GDP寄与度は-1.09%)。ただ、在庫部門は比較的速報値から改定値の間でブレが出ること、12月の企業在庫が11月から改善してプラスになったことなどから、若干の上昇が期

待され、改定値を支える可能性がありそうです。

また、設備投資との関連が深いコア資本財受注の12月分が、GDP速報値前に発表されていた速報値時点での-0.9%から、2月に入って発表された改定値ベースで-0.8%とわずかながら改善されたこともプラス材料です。

予想程度の改善であれば影響は限定的も、予想を超えて改善が見られるようだと、日本やユーロ圏の厳しい経済状況との対比が意識され、ドル買いが加速する可能性がありそうです。

同時に出る1月の耐久財受注は、変動の激しい輸送機器を除いた数字が+0.3%と前回の-0.1%から改善見込み。コア資本財受注は予想値がありませんが、こちらも少し改善が見込まれるところ。好結果を受けて第1四半期のGDPへの期待感が強まるようだと、こちらもドル買いの材料となります。

山岡和雅 | minkabu PRESS編集部

1992年チェースマンハッタン銀行入行。1994年ロイヤルバンクオブスコットランド銀行（旧ナショナルウェストミンスター銀行）移籍。10年以上インターバンクディーラーとして活躍した後GCIグループに参画。2016年3月よりみんかぶ（現ミンカブ・ジ・インフォノイド）グループに入り、現在、minkabu PRESS編集部外国為替情報担当編集長。（社）日本証券アナリスト協会検定会員 主な著書に「初めての人のFX 基礎知識&儲けのルール」すばる舎、「夜17分で、毎日1万円儲けるFX」明日香出版社など

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については伴線を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。